

伊達松風

題字 松浦常雄

第72号

令和6年3月23日

発行者

福島県公立学校
退職校長会伊達支部長
古宮 睦 男

巻頭言

がんばれ!



副支部長
蓬田吉穂

令和六年一月一日に能登半島地震が発生し、多くの被災者の方々が苦しみや悲しみ、不安な気持ちを抱えての生活を余儀なくされています。その姿を報道で目にする度に、十三年前の東日本大震災時の困難な生活、加えての原発事故で身の安全が脅かされた生活の日々が鮮明に思い出されます。

当時、私たちが安全面以外に心配していたことの一つに、子どもたちの心身の健全な成長がありました。震災及び放射線の問題で生活環境が変わり、行動制限のもとで育つ子どもたちの将来を危惧していました。実際、子どもたちを対象にしたある生徒指導の調査では、福島の子どもたちは、阪神大震災時の子どもたちに比べて「荒

れ」よりも「抑うつ」傾向が強かったとのことでした。震災以降、漠然とした不安感や無気力による不登校の児童生徒が増えてきたのも一概には言えませんが何か関係があるような気がしています。

その上で、子どもたちを震災の被害者に留めておくのではなく、復興の担い手になるよう励ましていくことが求められたように思います。当時勤めていた中学校では「がんばれ(頑張れ)・がんばれ(願生れ)」を合言葉に教育活動を行いました。一つ目の「頑張れ」は困難に負けないで、自分の目標に向かって頑固に突っ張れの意味で使いました。二つ目の「願生れ」は笑顔を忘れない。晴れ晴れとした笑顔は幸運をもたらしてくれる。三つ目の「願生れ」は願いを持って生きる。願いや夢は心のエネルギーの意味です。能登の子どもたち一人一人が今の困難を乗り越えて夢や希望を持って逞しく生きていくことを願わずにはいられません。

わが町の教育

桑折町のICT活用教育

桑折町教育委員会教育長 田智康



国のGIGAスクール構想は、学校で子供たちに一台ずつタブレット端末を持たせ、データ通信ができるようにし、学習で活用させる事業です。コロナ禍が始まってから、大きく前倒しして進められてきました。

使いながら、調べ学習や話し合い、意見発表やオンライン交流などを効率的・効果的に行っています。以前とは、授業の風景が大きく変わりましたし、子供たちの情報活用能力も格段に伸びています。

しかし、桑折町では、平成二十二年度に町内小・中学校の全学級に電子黒板を設置するなど、以前からICT環境を整備し、その活用を努めてきました。



しかし、ICT活用については、メリットばかりでなく、デメリットも指摘されています。場合によっては、学力的向上に悪影響があるという調査結果もあるようです。今後は、学習において使うべき場面、使うべきでない場面を明確に区別して、効果が期待

委員会の協議・研修等を計画的・継続的に行っています。そして、学校の授業で、年間を通して日常的にICT環境を活用するとともに、自宅へもタブレットを持ち帰らせ、家庭学習での活用も図っています。

町内小・中学校では、子供たちが自然にタブレットや電子黒板を使いながら、調べ学習や話し合い、意見発表やオンライン交流などを効率的・効果的に行っています。以前とは、授業の風景が大きく変わりましたし、子供たちの情報活用能力も格段に伸びています。

このような取組も通しながら、「桑折町の十五歳のめざす姿(人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子)」の一層の実現を図っているところです。

＊クラフだより＊

五七五クラブ

《俳句》



〔国見方部〕津村 栄
天さかる鄙に卒寿も初の夢
歓声も黄色なりけり福寿草

〔国見方部〕中村 洋平
山茶花や冬の寒さに耐えて咲く
霧の中山の紅葉見え隠れ

〔霊山方部〕丹治 睦雄
湯のけふる冬の宿にて古希祝い
吐く息の白き尊きウオーキング
孫と漕ぐペダル軽やか秋の風

《川柳》



〔津村 栄〕
花々を咲かせ散らして光る君
木を入れて千秋楽ですあなた様

〔中村 洋平〕
移住する次の住まいは揺れぬ町
熊だつて腹がへつては眠れまい

〔丹治 睦雄〕
覚え立て孫の書く字はアートフル
孫発見S A N I K U 模様は文字
だった

《短歌》



中村 洋平

六才の息子見つけた亀の子は
半世紀後の今も健在

津村 栄

わが庭の月桂樹の木と神の木の
神なかよく葉を触らし居り

囲碁クラブ

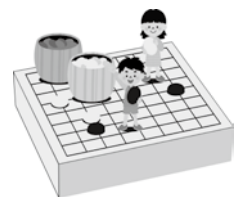
定例会

〔保原方部〕荒 哲也

去る一月二十六日(金)、保原
交流センターで今年度二回目の例
会を開催しました。会員数もどん
どん減少して四名ほどの参加者で



したが、盤上ではそれとは関係な
く激戦の連続で楽しい一時を過ご
すことができました。
今後火を絶や
すことなくできう
る限り本会を続け
ようと互いに確
認しあいました。



趣味の世界

活動の一端と
記念演奏会

〔国見方部〕渡辺 勝則

初めての試みになりますが、Q
Rコードを取り入れた投稿をさせ
て頂きます。スマホをお使いでな
いと読み取ることが出来ませんが
お許しください。

バンドに加入させていただいて
から八年近く経とうとしていま
す。

その間、コロナ禍で数年活動で
きない時期がありました。自粛中、
ユーチューブではありませんが、
知人宛てに、宅録した曲を一日一
曲、一ヶ月間ラインで配信し励ま
し合いました。

現在は以前と同様に人前でも演
奏が可能となり、イベントにも参
加しています。一月二十八日には

結成記念演奏会を開催しました。
QRコードの動画は初期の演奏
の一コマです。合わせる事の難し
さを痛感しながら演奏しました。
いつまで続けられる活動か分か
りませんが、健康で
指が動く間は楽しく
趣味の時間を過ごし
たいと考えています。



※下のQRコード
をスマホのカメ
ラかラインの
友追加の
マークで読み込みますと動画
がご覧頂けます。



祝ご長寿

祝・賀寿 九十五歳

伊達支部からお二人が満九十五歳を迎えられました。誠にありがとうございます。お誕生日に福島県公立学校退職校長会からの賀寿賞状、賀寿記念品、額縁を伝達させていただきます。

〔保原方部〕 小河 徹也様

(昭和三年十一月一日生)



退職後は保原町の地域の活性化にご尽力なされ、特に老人クラブの会長として活躍されました。地域の方々からの信頼が厚く、様々な役職を務められました。

現在は、奥様と一緒に施設に入所されています。大変お元気で、入所されている方々と談笑されたり、軽い運動をされており、施設内では車椅子を使用されていますが健康上の問題もなく施設の方と昔話で盛り上がっています。

昔話をすることは脳の活性化につながり、健康を保つのに有効だそうです。

〔桑折方部〕 猪俣 好巳様

(昭和四年一月十三日生)



桑折町のご自宅に奥様とお元気に過ごされています。八十歳迄はスキーを嗜まれ、今も散歩や筋トシを続けて体力維持に努められています。長らく町社会教育指導員や長寿会会長を務め、地域に貢献されてきました。

訪問時には、昨年六月発行の「桑折町案内どころ三十二選」の説明を受け、桑折町の魅力を再確認させていただきました。最近では専ら畑仕事に励み、野菜作りを楽しまれています。自家製の野菜ジュースを毎朝飲んでいることが長生きの秘訣とおっしゃっていました。

祝・賀詞 八十八歳

支部長と庶務でご自宅を訪問し、米寿のお祝いを届けました。支部長より皆様に全国連合退職校長会

からの賀詞賞状を支部祝の額縁に入れて伝達させていただきました。

〔保原方部〕 田野入 清人様

(昭和十二年二月十二日生)



保原町のご自宅でたくさんの盆栽に囲まれ、お元気に過ごされています。訪問時に原稿を預かりましたのでご紹介します。

「米寿の人生は出会いと感謝です。美術教師として生徒との出会い、美術を糧として物づくりの多くの方々との出会い、ご交誼で励まされるを受けて存分の仕事ができただけです。退職校長会では保原委員として二十二年間、教育懇談会、研修旅行等で先輩諸氏から懇切なご教示を賜り感謝申し上げます。趣味は盆栽あればこそ吾あり、友として六十年、意地の一本道の歩みでした。手を掛けただけ期待に添える姿に生き方を教わり生かされたことと思っております。これからは三友を目標にひ孫の成長と4Kの映画鑑賞、昼寝をのんびりと過ごしたいと思っております。」

〔保原方部〕 渡邊 昭様

(昭和十一年二月二十二日生)



保原小学校退職後、保原町の教育長として敏腕を振るわれました。教育長を勇退された後は、様々な団体の顧問や相談役として町の発展に貢献されています。

伊達市相撲振興協会には発足当時からかわり合い、会長として協会を発展させ、現在は顧問として協会を支え続けておられます。現在、大相撲で活躍している大波三兄弟や丹治兄弟も、協会が主催する伊達市民相撲大会に参加し、力をつけてきました。

現職の頃から、毎日二万歩を超えるウォーキングを日課とされていましたが、最近は車で出かけることが多いそうです。でも、一日缶ビール一缶と一合半のお酒で元氣一杯の生活を送られています。

いつまでもお元気で過ごされ、伊達支部後輩の我々をどうぞご指導ください。

学校現場から

松前交流活動の軌跡

伊達市立梁川中学校長

二瓶 匡弘

江戸時代、幕府は対ロシア政策として蝦夷地を幕府直轄地にし、北海道松前藩は十四年間、梁川に移封されました。そのご縁から松前町と梁川町は、昭和五十九年に姉妹都市を提携し、平成二十八年より中学校同士の交流事業が始まりました。

両都市のつながりをこれまで以上に発信するために、今年度は両校生徒会同士でコラボレーション

企画を三つ計画しました。

- ・ 紙芝居
- ・ 給食交換
- ・ コラボパン

中でもコラボパン企画は、地元のパン店に協力を依頼し、何度も試作や打合せを重ねました。完成したパンは、その名も「もちもちぎりばん」です。松前城の桜を形取り、桃クリーム味と桜あん味を作りました。また、包装用のパッケージや当日配付するチラシのデザインなども一から作成しました。交流活動当日は、道の駅りょうぜんで、両校生徒会による販売会を実施しました。準備した百個のパンは、販売開始十分で完売とな



り、大盛況のうちに終わりました。来年は本校が松前町を訪ねます。これからも両都市の交流を深めるとともに、地域の皆様との連携をより一層大切にしていきます。

『月舘学園の今』

月舘方部長 矢舘 実也



わが町のこと 月舘町

月舘学園小学校・中学校が開校して四年が経とうとしています。そこで、本稿では、その現状についてお知らせいたします。一月現在の在籍数は、小学校が六四名(二・三学年複式)、中学校が五六名の合計一二〇名ですが、来年度は八名減になる見込みです。なお、学区のない特認校に指定されています。

教職員数は、佐藤仁一校長を含め小中学校合わせて三七名です。教育活動は、「小中一貫教育で子どもの未来を育みます」をスローガンに、安心して学べる教育体制、可能性を広げる教育方法、魅力あふれる教育内容の三つを特色として、教職員が情報共有を密にして取り組んでいるそうです。その結果、学級学年の枠組みを越えた更には地域と連携した様々な交流活動で、自立と共生の姿(望ましいキャリア発達)がよく見られるようになったとのこと。今

後の課題としては、将来の夢に向かって粘り強く挑戦する、失敗の経験を生かす子どもの育成だそうです。そのために、教職員は、P D C AとA A Rという二つの評価サイクルを生かしながら、主体的・協働的に取り組んでいるとのこと。吹奏楽部はもちろん、今後の教育活動に関心を寄せていただきけるとありがたいです。



事務局より

【令和六年度支部総会のお知らせ】

□日時 令和六年四月二十日(土)

午前十時より

□会場 保原中央交流館

コロナウイルス感染症の流行で紙面総会が続いておりましたが、昨年四年ぶりに対面開催できました。総会終了後には茶話会で近況を語り合い、楽しい時間を過ごしました。新年度も対面開催し、会員の皆様の元気なお姿を拝見したいところです。ご参加よろしくお願いたします。

【訃報】お悔やみ申し上げます。

浅野 栄様(九十二歳)

令和五年十二月七日逝去

八巻 誠様(九十六歳)

令和六年三月一日逝去

あとがき

一月一日、能登半島地震が発生しました。甚大な被害状況を知るたび胸が痛みます。犠牲となられた方々に謹んでお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様に対し、心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を願っています。

現在、東日本大震災を経験した私たちの生活はほとんど元通りになりました。「伊達の松風第七十二号」も無事発行できたことを嬉しく思います。今後も日常の有り難さに感謝しつつ、日々精一杯過ごして行きたいと思っております。(K・K)